

学校と企業・経営者の交流活動推進委員会

墨田区立本所中学校 桜井正光代表幹事講演

「これからのグローバル社会に生きる君たちへ ～何ごととも疑問(はてな?)から始まる～」

2009年11月12日、墨田区立本所中学校において、同区出身である桜井代表幹事が講演を行った。

桜井代表幹事は、本所中学校の全校生徒や保護者、地域の方々約600名に向けて、働くことの意義や学ぶことの大切さについて、実体験を交えながら分かりやすく語った。



働く(仕事)ということ

そもそも仕事とは何でしょうか？ お金をもらうための手段が仕事と思いがちですが、実はそれほど単純ではありません。私自身はこれまでの実体験から、他人(お客様)の役に立つことが「仕事」だと考えています。例えば、生活や社会のためになる本当に必要な商品を開発すれば、皆さんは喜んでくれます。このお役立ちに比例して、報酬の大きさが変わってくるのです。報酬の量はお客様が決めることです。



講師：桜井正光 代表幹事

私はリコーという会社のトップとして、入社式の挨拶では「昨日まではお金を払って学ぶ人、でも今日からは仕事をしてお金をもらう人になる。この違いは大きい」と訴えます。良い仕事をすれば、お客様から感謝をされて報酬がもらえる。そこに仕事の楽しさややりがい、達成感があります。もちろん、たくさんの報酬をもらうことも大切ですが、本当のところは、この「達成感」を得ることが重要です。これが仕事を続ける、あるいは新しいことに挑戦するエンジンになるのです。

グローバル時代に生きる

資源の乏しい日本が発展するには、平和で開放的なグローバル社会が不可欠です。皆さんがこれから活躍する舞台には、地球規模の協力や競争、さまざまな難問があるでしょう。これからの社会を生き抜くためには、自分の考えを持ち、主張し、違いを発見することが大切です。

「日本の常識は世界の非常識」という言葉があるように、お互いの違いをおかしいと決めつけてはいけません。私は長くヨーロッパに駐在していました。当時の日本人は仕事の亡者で、私もそのひとりでした。すると現地の人たちは、日

本人は仕事ばかりで家族やプライベートを犠牲にしている、そのバランスを考えながら仕事をしている自分たちと比べると、「アンフェア(不公平)だ」と言うのです。こうした考え方の違いを否定してはいけません。相手の文化や価値観、習慣を認めるということが大切なのです。

学ぶことの大切さ

疑問を持たなければ、「学ぶ」ことができません。いろいろなことに疑問を持つことがとても大切です。公式をただ暗記するのではなく、どうしてこのような公式になるのかを理解していなければ、応用力も身につかないでしょう。常に自分の周りで起きていることに、「なぜ?」「どうして?」と疑問を持つことがとても大事です。こうした好奇心や疑問こそが「学び」の生みの親なのです。

私の信条に「当知是処 即是道場(まさに知るべし、このところは即ちこれ道場なり)」という言葉があります。つまり、学びの場は学校だけでなく、生活のいろいろな場所にあるのです。疑問に思ったことを追究して、理屈っぽくなってください。それが社会に出て役立つ応用力や、解決能力を養うのです。

皆さんへのお願い

どんなにすばらしい人でも、一度に目標を達成することはできません。完全主義の人は途中で挫折する場合があります。できないことを反省して自分を追い詰めるのではなく、逆にできたことを自分自身で褒めてあげましょう。「打率は3割で十分」です。コツコツと努力を積み上げていくことが重要なのです。

